

平成 29 年度公立学校教員採用選考 1 次選考実施状況

《北海道・東北》

【青森県】「合格者数」には、併願希望者で第二志望校種による合格者も含む。【岩手県】採用予定者は小中学校あわせて 210 人程度、高校・特別支援学校あわせて 95 人程度、養護教諭は 30 人程度、栄養教諭は若干人。【宮城県・仙台市】保健体育、音楽、美術、家庭は中学・高校で一括募集。【秋田県】その他採用枠：医療科教諭等（受験 5 人、1 次合格 3 人、1 次免除 0 人、採用見込若干人）。【福島県】受験者数には、東京都採用福島県希望枠教員特別選考試験の合格者 26 人を含む。

《関東・甲信越》

【栃木県】小学校では、英語教育に係る特別選考（英語の免許による一部試験の免除）で別枠 30 人程度。小中学校では特別支援学級担当等の経験により一部試験を免除した選考で小中学校全教科併せて 15 人程度。【群馬県】採用見込：小学校・中学校・特別支援学校で 330 人程度、高校：70 人程度、養護：15 人程度。【埼玉県】高校（工業）は電気、機械、建築、情報技術、土木。高校（その他）は福祉。【東京都】次の採用枠は、総計にのみ含む▼小中（音楽）：受験 313 人、1 次合格 130 人、1 次免除 18 人、採用見込 80 人 [小中（美術）と共通]▼小中（美術）：受験 184 人、1 次合格 138 人、1 次免除 11 人▼小中高（家庭）：受験 152 人、1 次合格 66 人、1 次免除 1 人、採用見込 20 人。【横浜市】中学校・高校は一括して募集・採用。【相模原市】「中学校合計」には中学校（特別支援）を含む（受験 10 人、一次合格 8 人、採用見込 3 人）。【新潟市】今回から「中・高共通」枠による採用を実施（技術を除く）。

《東海・北陸》

【静岡市】小学校採用見込数には、特別選考合格者（17 人）を含む。【愛知県】高校（その他）の 1 次合格者は福祉 3 人、水産 7 人。【富山県】第 1 次検査の一部が免除となる受験者は、1 次選考免除者としては扱わない。【石川県】1 次、2 次の区別なく全ての受験者に全ての試験を実施。中高教科別の受験者数は未公表。【福井県】国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保体、家庭は中高一括募集。高校（その他）は福祉。1 次試験一部（一般教養と教職専門）免除は実施しているが、1 次試験の全てを免除する制度はない。

《近畿》

【京都府】スペシャリスト特別選考、国際貢献活動経験者特別選考及び身体障害者特別選考は各校種・教科を含む。中学校（音楽）、高等学校（書道・看護）については募集なし。高校（地理・歴史・公民・理科）については一括募集、その他は水産。採用見込者数は中高の教科ごとの内訳が未定のため、小計欄のみ記載。【京都市】「小学校」には「幼稚園」含む。特別選考の各人数は、各校種・各教科の人数を含む。【大阪府】小学校には小中いきいきを含む。また特別支援学校中等部・高等部は、中学校及び高校と一括募集のため、中学校（合計）の採用見込み数には特別支援（中学）110 人、高校（合計）の採用見込み数には特別支援（高校）210 人を含む。特別支援学校には自立活動教諭及び視覚支援学校教諭を含む。高校（その他）は韓国・朝鮮語、中国語、共通福祉。【大阪市】▼中学校：1 次合格者数には、高等学校の受験者のうち、中学校との併願を希望し、高等学校では不合格とされたが、中学校では合格と判定された 3 人を含む。中学校の小計には中学校「特別支援学級」の対象者数（受験者 117 人、合格者 52 人、一次免除者 28 人）を含む。その他採用枠は幼稚園・小学校共通（受験者 102 人、一次合格者 16 人、一次免除者 4 人、採用見込者 約 10 人）▼高校：「その他」について、「家庭・福祉共通」の数値である。高校の内訳について、「理科」は「生物・化学共通」と「物理・化学共通」の 2 枠で募集しており、「工業」は「機械」、「電気」、「建築」、「デザイン」の 4 枠で募集。数値は合計数。▼養護：幼稚園と小・中・高校共通の 2 枠で募集。数値は合計数。【兵庫県】小学校・中学校の小計には特別支援学校採用分を含む。内訳は次の通り▼小学校：採用見込 30 人、他：非公表▼中学：受験者 85 人、合格者 29 人、免除者 4 人、採用見込 20 人、倍率 2.9。【奈良県】高校（その他）は家庭（調理）。ほか実習助手（受験者 17 人、合格者 11 人、免除者なし、採用見込 3 人、倍率 1.5）。【和歌山県】表にある数字は、一般選考における受験者数等。ただし、芸術・スポーツ分野特別選考及び博士号取得者特別選考における受験者数等を含む。身体に障害のある者を対象とした選考の内訳は次の通り▼受験者：5 人（内訳：小学校 1 人、中学校 1 人、高等学校 2 人、特別支援学校 1 人）▼合格者：4 人（内訳：小学校 1 人、中学校 1 人、高等学校 1 人、特別支援学校 1 人）。

《中国・四国》

【鳥根県】「障がいのある者を対象とした選考」（採用予定 3 人）を募集したが、出願者なし。【岡山県】小学校の中には小学校（理数枠）と小学校（英語枠）と小学校（地域枠）の数も含む。中学校の中には中学校（地域枠）の数も含む。養護学校の中には養護学校（地域枠）の数も含む。「障害のある者を対象とした選考」は 3 人の者が受験し、1 人が 1 次試験を合格している。1 次免除者は 1 次合格者数の中に含む（教科毎の数は公表なし）。【岡山市】中学校に関しては、教科別の受験者・合格者・採用見込者の人数は公表しないこととしている。小中連携推進に関しては、1 次受験者 48 人、1 次合格者 30 人、採用見込者 15 人。身体に障害のある者を対象とした選考に関しては、1 次受験者 1 人、1 次合格者 1 人、採用見込者若干人。総計の中には小中連携推進と身体に障害のある者を対象とした選考の人数を含む。【香川県】小・中の採用については、合わせて 222 人程度を予定。高校・特支の採用については、合わせて 58 人程度を予定。小学校と中学校の併願、養護の小・中と養護（高校・特支）の併願を可能としている。養護の 1 次合格者数には、養護（小・中）の合格者と養護（高校・特支）を含む。【高知県】総計には中高連携枠を含む。内訳は次の通り▼数学：受験者 6 人、合格者 3 人、採用見込 1 人▼理科：受験者 4 人、合格者 3 人、採用見込 1 人。また、他に現職教員等特別選考を設定（小学校教諭：10 人程度採用予定→9 人応募）（小・中学校養護教諭：5 人程度採用予定→応募者なし）。

《九州・沖縄》

【福岡県】高校には久留米市立高等学校を含む。身体障害者を対象とした特別選考の内訳は以下のとおり▼受験者 11 人、合格者 8 人。【福岡市】一次受験者数は未公表のため、一次受験者数欄に記載している数値は一次志願者数。【北九州市】小学校区分において 1 次合格者には、特別支援学校（小学部）を受験し、併願で小学校区分にて合格した者 2 人を含む。【大分県】高校（その他）の内訳は次の通り（特別選考を含まない）▼高校（公民）：受験者 14、合格者 5、採用見込 1 人▼高校（福祉）：受験者 1 人、合格者 1 人、免除者 1 人、採用見込 1 人▼高校（水産）：受験者 1 人、合格者 1 人、採用見込 2 人。【熊本県】英語の採用区分は、小・中学校 A 区分及び B 区分。内訳は次のとおり▼小・中学校英語 A 区分：受験者 7 人、合格者、7 人、免除者 0 人、採用見込 6 人▼小・中学校英語 B 区分：受験者 63 人、合格者 29 人、免除者 2 人、採用見込 8 人▼高校（その他）は福祉▼障がい者特別選考は含まず（小・中学校英語 B 区分：受験者 1 人、合格者 0 人）。【熊本市】中学校（国語・数学・英語）は、中高共通の採用枠で実施。その他の採用枠：小学校外国語活動推進区分（受験 14 人・合格 12 人・採用見込 5 人）、特別支援教育推進区分（受験 27 人・合格 15 人・採用見込 5 人）、中学校特別支援教育推進区分（受験 21 人・一次合格 7 人・採用見込 3 人）。一次試験免除者はないが、試験一部免除者はあり。〈参考〉一次選考試験一部免除者（合格者） ・小学校 129 人（50 人） ・中高共通 38 人（12 人） ・中学校 88 人（29 人） ・養護 17 人（6 人） ・栄養 2 人（0 人）。【鹿児島県】その他採用枠：実習助手（受験 54 人、一次合格 16 人、採用見込 7 人）と事務職員（図書）（受験 57 人、一次合格 4 人、採用見込若干人）。【沖縄県】音楽、美術、家庭は校種共通で、中学の欄に記載。そのため採用見込み数も中学の欄に記載。高校（工業）の内訳は次のとおり。機械：受験者 25 人で 1 次合格者 7 人。電気：受験者 23 人で 1 次合格者 5 人。工業化学：受験者 4 人で 1 次合格者 3 人。その他については、高校（水産）が、受験者 4 人で合格者 4 人。高校（福祉）が、受験者 7 人で合格者 3 人。中学（理科）については、試験問題配布ミスにより全員合格とした。